

育

成

会

報

発行日 ● 2020年3月16日 **第61号**
発行責任者 ● 境地区手をつなぐ育成会
会長 戸塚 和市
事務局 ● 社会福祉法人 桑の実福祉会
Tel. 0270-74-0811

群馬県手をつなぐ育成会社会活動推進事業(生き生きゆうあいサークル事業)

わくわく体験バスハイキング

日時 ● 令和2年2月9日(日)
場所 ● 東京臨海広域防災公園

東京・有明の防災体験
学習施設で、いざという
時のために、色々な
ことを学んできました。

わくわく体験バスハイキングに参加して

伊勢崎市手をつなぐ育成会事務局 天野公平

2月9日、日曜日、境地区手をつなぐ育成会のわくわく体験バスハイキング(群馬県手をつなぐ育成会委託事業/生き生きゆうあいサークル事業)に参加させていただきました。当日は天候に恵まれ、集合場所の桑の実福祉作業所に到着すると、参加者の方々の元気な笑い声が聞こえてきました。社会体験の目的地である「そなエリア東京」は、タブレット端末を使った防災体験や、津波避難の体験ができる施設ですが、防災拠点施設としての機能も有しており、災害発生時には首都圏の災害支援において様々な機能がはたらく施設なのだそうです。

今回は、防災体験を参加者全員で体験させていただきました。



実際に災害が発生したかのように作りこまれたセットの中で防災学習をし、普段はなかなかできない経験ができました。参加者の皆様も楽しさとほどよい緊張感を持って参加されていたと思います。お昼は、ランチバイキングでゆったりと楽しむ事が出来ました。

今回の事業の企画・運営に携わった境地区手をつなぐ育成会の皆様、大変お疲れさまでした。



福祉パレード

日時 ● 令和元年9月10日(火)

場所 ● 境地域福祉センター

第47回 福祉パレード メッセージ

境地区手をつなぐ育成会 会長 戸塚和希

第47回福祉パレード 境地区集会の開催に当りひと言メッセージを申し上げます。

私たち知的障害者支援に関わる関係団体では、毎年九月を「知的障害者福祉月間」と定め、知的障害者に対する理解の増進と、教育・福祉の向上を図るために、毎年この時期にパレードを行っています。今年度は「共につくる、差別のない社会」のスローガンのもと、理解の輪を広げて参りたいと存じます。

始めに、障害者福祉をはじめとする福祉施策の推進にご努力されている、伊勢崎市および境地区の皆様へ、心から感謝とお礼を申し上げます。

群馬県においては、令和2年度から四年間の、「第16次群馬県総合計画」の策定作業が本格化しますが、この総合計画においても、障害者福祉の更なる前進に期待するところです。障害者に対する不当な差別的取扱いの禁止と、合理的配慮等を織り込んだ「障害者差別解消法」が施行され、群馬県においても、本年3月に、県議会で、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する条例」が可決されています。しかし、障害に対する知識や理解不足、偏見に起因する差別は色々な場面で見られます。この法律をより効力のあるものにするための啓発活動にもご協力をお願いいたします。

また、障害者権利条約が国連総会で採択されてから十年以上経過していてもなお、知的障害者を取り巻く状況には、本人の経済的自立の困難、家族の経済的負担、家族の心身の疲労、親亡き後の不安など大きな課題があります。

私たち関係者は、ここに集う皆様とともに、障害者とその家族が安心して生活できる社会を築くために更に努力することを誓うものです。

これからも、行政、議会、教育・福祉等の各機関が一丸となり、障害のある人たちが将来に夢を描くことのできるような施策の推進と、地域生活を支える環境基盤の整備をしていただきますよう、心からお願い申し上げます、メッセージといたします。



メッセージ

桑の実福祉作業所 利用者代表



2019年になって半年が過ぎようとしています。今年は、4月30日で平成が終わってしまいました。あっという間でした。5月1日から令和に代わりました。令和はどんな時代になるのか？戦争のない時代になってほしいと思います。

作業所に入って13年目になりました。私がやっている作業は、マキタ(スバル シャーペンのさや(上の部分)など)、ヤマト(配送)ジューキ、オギノ電機などをやっています。最近、草むしり、公園掃除も行っています。暑いけど、夏に負けないようにガンバります。私は、音楽を聴いていてバックナンバー、乃木坂46、岡田有希子さんなどを聴いています。秋が近づき、スポーツの秋などになります。私は、風邪をひかないようにみんなと一緒にガンバリたいと思います。



スポーツ大会 陸上



日時 ● 令和元年9月22日(日)
 場所 ● 県立ふれあいスポーツプラザ



みんなにんげん! つながりフェスティバル

日時 ● 令和元年11月10日(日)
 場所 ● 境総合文化センター大ホール



▲ 東町お囃子保存会



▲ 手話サークル 夢風船



▲ パントマイムブラネット



クリスマス会

日時 ● 令和元年12月14日(土)
場所 ● 伊勢崎市障害者センター



▲ みんなで作ったクリスマスメニュー

あしがき

2月13日(木)、境総合文化センター大ホールにお笑い芸人ゴルゴ松本さんがやってきた。内容は、「命の授業」。数年前から少年院や各地で講演活動を行っていて内容は、いたってシンプルなもの。ゴルゴ松本さん自身の人生観から、漢字の持つ意味合いを自己流に解き明かすことで生きていくうえで大切なことや、当たり前がどんなに大事なものなのかを伝えています。お笑い芸人だけに話のテンポが上手い。どんどん話しに聞きいってしまう。

例えば、「吐く」という字は、口へんにプラスマイナスと書く。嫌な事は吐き出し、ポジティブな事を言う。マイナスを取るとプラスだけになり、「吐く」という字になる。「幸せ」と「辛い」は幸せでも何かが欠けていたら辛くなる。辛くても何かが加われば幸せになる。

「苦難」「困難」「災難」など「難」は良いイメージが少ない漢字 — 出来れば「難」は無くなって欲しい。しかし、難が無くなると「無難」。難が無いのは「無難な人生」…つまり退屈な人生。やっぱり、「難」は有った方が良いんだよ。「難」が有る人生、「有」「難」と書いて「有難し」…など。

何気なく発している普段の言葉にも意味があり、考えることなく使っていました。漢字以外でも「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」(どんなことでも強い意志を持って行えば必ず成就するという意味)ということわざを用いて、ゴルゴ松本さんが、赤ちゃんの泣く物まねを行い、その後観覧席の中から数名指名して実際に赤ちゃんの泣く物まねを行ってもらっていました。本職がお笑い芸人ということもありゴルゴ松本さんの物まねは迫力があり、それに圧倒されたのか指名された方は緊張と恥ずかしさから小さな声で物まねをしていました。ゴルゴ松本さんが「完璧でなくてもいい、自分の中で本気でやってみましょう」と助言を行い、再度チャレンジすると、今度は大きな声でなおかつ初めに行った物まねより似ていると感じました。この様子を見て、どんな困難なことでも、自分の持てる力を最大限利用し日々の仕事に打ち込もうと思いました。(事務局 K)

* すべての写真の掲載についてはご本人の同意を得ています。

もちつき大会

日時 ● 令和2年1月18日(土)
場所 ● 境地域福祉センター

